

こころみ



平成22年 3月 3日
担当 教務主任会

小・中連携 = 実践紹介 (外国語活動)

今年度の「こころみ」は、「小・中連携」をテーマにして作成しています。教務主任会作成の「こころみ第3号」では「小・中連携」の具体的な実践をご紹介します。

中学校英語教員が小学校の外国語活動へ協力することで、中学校としては「小学校の学習内容がわかり、中学校へのつなぎがやりやすい」また小学校としては「専門性を生かした中学校教員の活用で、授業に深みが出る」と考えており、双方にメリットがある取組といえます。

A) 田代中・山瀬小・早口小での実践

授業時間の調整は、小中の英語担当教員同士で行い、中学校英語教員の移動時間も考え、空き時間が連続する日を選ぶようにした。中学校英語教員がT1として授業を行ったり、あるいはT2として行ったりした。そのための小中の担当教員の打ち合わせを数回実施し、小学校と中学校の連携を図った。

事前打ち合わせについて

小・中連携研究部会の際に「外国語活動分科会」を設定し話し合った。その中で、「中学校要請訪問の際に小学校教員が授業を参観すること」「小学校外国語活動に中学校英語教員が加わること」が話し合いで決められた。

中学校英語教員が小学校を訪問し小学校の担当と話し合いながら協力して、英語ノート年間指導計画（市作成のもの）をもとに指導計画を作成した。小学校担任は、子どもの実態を考慮に入れ、また中学校教員は専門的立場から活動のアイデアを提案する形で共同で作成した。

教具は、双方で分担して製作。早口小では授業の前に放課後（16時）の打ち合わせを2回実施した。また山瀬小では、前日の放課後に打ち合わせを行った。

本時（10月9日）

授業の前日はTTの指導過程を一通り担当教諭同士で確認して最終打ち合わせを行った。小学校担任がT1、中学校英語教員がT2として実施。いつも通りの外国語活動のスタイルで授業を進め、ALTに当たる役をT2（中学校英語教員）が行った。中学校に兄弟がいる児童も多く、すぐにT2とも馴染んで英語活動を楽しんだ。

指導後の反省と次回の確認

- ・小・中連携研究部会で「打ち合わせの時間を設定する」としていたので、急な計画となったが打ち合わせの時間は最小限確保できた。
- ・外国語活動ということで、授業の始まりを「気をつけ。これから～」ではなく、Are you ready? Yes. という中学校の形態にした。
- ・外国語活動に自信のない教員であれば、中学校英語教員とのTTは心強く感じた。
- ・今回は5年生の授業だったが、来年も計画的に実施していくことで、中学校への不安をなくし、中1ギャップの解消につながる。
- ・中学校教員にとって、小学校の児童の実態や外国語活動の内容等がわかってよかった。



B) 大館東中・有浦小での実践

小学校外国語活動の授業に関しては、小学校からは特に中学校英語の教員による専門的な授業を行えたらよいという要望があった。また中学校からは、小学生の様子を知りその後の指導に役立てたいという思いがあり、双方の思いから交流授業を行うことになった。今年度は、7月22日・8月27日・28日と3回にわたって、中学校英語教員が小学校を訪れ英語活動の授業をTTで行った。小学生が、本格的な英語の授業に楽しく取り組むことができた。



事前打ち合わせについて

交流授業を行うに当たり、打ち合せの時間を設定することが大きな課題であり、実際に大変であった。夏休み前の7月22日の授業については、授業日である7月10日に打ち合せを行った。時間の調整は、小・中学校の担当教員同士で行ったが、中学校の英語教員の空き時間が連続する日を選ぶようにした。夏休み明けの8月27日・28日の授業の打ち合せは、夏休み中に行った。また、お互いに時間が合わないときは、FAXのやりとりで打ち合せたこともあった。

授業の構成は、小学校教員が「外国語活動中核教員研修会」等に参加したときの先進校の資料などをもとに考え、それに中学校教員がアドバイスを加えていくという形で作っていった。また、授業で使用する教具は市販の指導書や英語ノートを参考に、互いに話し合って作った。なお、この3時間の交流授業は、年間指導計画の時数に含まれるものになっている。

本時

小学校教員がT1、中学校英語教員がT2として実施した。1回目は「Do you like ~」を、ゲームなどを通して学習した。2回目は「What do you want?」「~please」の対話練習、3回目は2時間目に学習したことを使って、店員と客になっての対話練習を行った。BGMにのってリズムよく話したり、中学校教員と児童の直接の対話によって本格的な英語での会話を味わう場面も見られた。

指導後の反省と感想

小学校教員から

- ・1回のみでの交流でなく、3回行えたことがよかった。打ち合せを密に行えたことが授業に生かされた。
- ・単元を見通して授業を考えることができた。また、役割分担や授業の進め方も計画的に行うことができ、全てにおいてプラスであった。

中学校教員から

- ・小学校の先生がエネルギーで驚いた。非常に楽しく授業することができた。

小学生の感想

- ・正しい発音や使い方などを知ることができ、よかった。
- ・「またやりたい」という感想が非常に多かった。

C) 今後に向けて

平成22年度の小学校と中学校の交流授業の必要回数を決めること。

中学校 小学校の学習内容がわかり、中学校の指導の改善点等が明確になる。

小学校 中学校教師の専門的な知識を得ながら小学校外国語活動の授業に深みをもたせることができる。 となるために必要な回数だけ交流授業を行うと考えたい。目安としては前期1回後期1回の2回がよいのではないか。

交流授業をする際に打ち合わせは必須である。年度当初に計画を立てることが必要である。たとえば、中学校英語教員の空き時間が連続している部分を事前に把握し小中で連絡調整し決めるとよい。外国語活動に限らず、各教科においても小・中連携による授業実践は有効である。小・中連携研究会を利用しながら、まずは実践してみることが重要と考える。